

議 事 録 要 旨

| | |
|---------|--|
| 会 議 名 称 | 令和2年度 第3回加古川市総合計画審議会（第3部会） |
| 開 催 日 時 | 令和2年8月24日（月）午後2時00分から午後3時20分まで |
| 開 催 場 所 | 青少年女性センター4階 大会議室 |
| 出 席 者 | <p><委員></p> <p>部会長 三輪 康一 副部会長 大庫 隆夫 委員 久保田 八平、達可 明朗、西 正勝</p> <p><加古川市></p> <p>企画部次長 神戸 生也 企画部参事 竹中 重夫 産業経済部次長 山本 要 建設部次長 中務 裕文 都市計画部次長 村津 雅淑</p> |
| 会 議 次 第 | <p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>（1）総合計画（原案）について 基本目標3 活力とにぎわいのあるまち（P76）</p> <p>（2）前回までの意見の整理について</p> <p>（3）その他</p> <p>3 閉会</p> |
| 会 議 資 料 | <p>1 次第</p> <p>2 加古川市総合計画（原案）</p> <p>3 資料1 施策「商業・サービス業の振興」の原案修正資料</p> <p>4 資料2 第3部会における意見の整理（事務局案）</p> |
| 傍聴者の数 | 2人 |

| | |
|----------------------|---|
| 審議内容（発言者、発言内容、審議経過等） | |
| （事務局） | <p>1 開会</p> <p>（委員の出席状況）</p> <p>（事務局）第3部会委員7名中5名が出席していることを報告</p> <p>2 議事</p> <p><u>（1）総合計画（原案）について</u></p> <p>基本目標4 活力とにぎわいのあるまち</p> <p>政策（1）商業・観光を振興する</p> <p><u>施策①商業・サービス業の振興</u></p> <p><事務局説明></p> |

| | |
|--------|--|
| | (質疑応答) |
| (委員) | 原案には食肉センターの取扱量が減少傾向にあると記載されているが、 どうということか。 |
| (加古川市) | 食肉センターでは牛を集めてきたあと、と畜して肉や内臓に分けていく が、その取扱量が減少していることに加え、その場で買参人（ばいさんに ん）による競りが行われるが、その数も減少していることを指している。 |
| (委員) | なぜ加古川の食肉センターが減少傾向にあるのか。 |
| (加古川市) | 全体的に食肉処理施設が統廃合され、大きく新しいところで処理される 傾向にある。市の食肉センターも昭和62年に設立され、30年が経過し ていることも要因として考えられるほか、約3年前に姫路市内に最新の食 肉センターが設立された影響も受けていると考えている。 |
| (委員) | 最新設備の導入など市から働きかけることはできないのか。 |
| (加古川市) | 定期点検はもちろんのこと、販路の拡大や施設の計画的な補修による可 能な限りの維持にも取り組んでいる。その他、加古川和牛や志方牛などの ブランド牛のPRも行っている。 |
| (部会長) | 食肉センターは市の第三セクターか。 |
| (加古川市) | 公益財団法人加古川食肉公社は市の第三セクターである。 |
| (副部会長) | イノシシが多数出没することから、捕まえてジビエ料理として食べたら どうかという考えがあるが、牛を処理する食肉センターとは別に、シカや イノシシなどを処理・加工する専門の施設が必要と聞いたことがある。市 の食肉センターにそうした専門施設を併設することで、結果的に農家の被 害も減り、一石二鳥だと思うがどうか。また、専門施設は県内のどこにあ るのか。 |
| (加古川市) | 具体的な施設についての回答は本日持ち合わせていない。 |
| (委員) | 捕獲したイノシシやシカをどのように処理するのか。 |
| (加古川市) | ジビエ料理として扱う場合は、食肉を冷蔵や冷凍保存していると聞く。 本市では、猟友会の方に処理してもらっている。 |
| (副部会長) | 丹波篠山市では猪鍋を名産料理にしている。加古川市は加古川和牛や志 |

| | |
|---------------|---|
| <p>(加古川市)</p> | <p>方牛の流通量が少ないことから、こうしたジビエの名産料理があればいいと思う。</p> <p>加古川和牛はご意見のとおり流通量が少ないが、志方牛は安価で、安心できる肉として、ある程度市内にも流通している。</p> <p>(2) 前回までの意見の整理について</p> <p>基本目標 4 快適なまち</p> |
| <p>(事務局)</p> | <p><事務局説明></p> <p>(質疑応答)</p> |
| <p>(副部会長)</p> | <p>資料 2-1 の No. 19 は最先端を求めていくという主旨の内容であるが、No. 13 については、コミュニティ交通におけるバスの自動運転の実用化をやめておくというような印象を受けるものであり、矛盾が生じていないか。</p> |
| <p>(事務局)</p> | <p>各委員のご意見を尊重し、主要な意見として取りまとめている。</p> |
| <p>(副部会長)</p> | <p>運転手の確保や技術的な課題もあると思うが、スマートシティをめざすまちとしては実用化に向けて取り組む方向性で意見をまとめればいいのか。</p> |
| <p>(事務局)</p> | <p>課題をしっかりと認識したうえで、どのように取り組むことが適当かつ有用なのかを考えつつ意見の整理をさせていただきたい。</p> |
| <p>(部会長)</p> | <p>表現についてご検討をお願いします。</p> |
| <p>(副部会長)</p> | <p>資料 2-1 の No. 1 については、市北部のにぎわいの創出について記載されており、見土呂フルーツパークの再開発も関連すると思われるが、再開発の内容としてはネスタリゾートのようなイメージを持っている。見土呂フルーツパークには宿泊機能を持たせるようだが、市内の宿泊業者にも影響があるのではないか。</p> <p>前回の答申と今回の答申案は類似する内容も多いが、見土呂フルーツパークを例にすると、前回の答申において「活性化に努められたい」という意見があったが、今まさに再整備に向けた取組が進んでいる。そのように考えると、主要な意見にある合宿誘致についても見土呂フルーツパークに宿泊施設があることで実現できるかもしれない。</p> |

| | |
|--------|--|
| (委員) | 委員の意見に関連して、市では、見土呂フルーツパークの再整備だけを検討しているのか。それとも、見土呂フルーツパークを軸として周辺も含めて整備を検討しているのか。 |
| (加古川市) | 見土呂フルーツパークの再整備については、当該施設の観光拠点化に重点を置いて検討を進めているが、ご意見のとおり市内部には多くの公園等があるため、それらとも関連付けて、関係部局が一体となってにぎわい創出に向けて考えてまいりたい。 |
| (委員) | <p>資料２－１の No. ２については、産業系土地利用に特化した意見ではなく、むしろ全体にまたがる意見であると考えており、都市機能の適切な誘導と集積に含まれる方が適切であると思う。あらゆる土地利用を図るときに、災害リスクを考慮したうえで考えなければならない。そこで、「市街地の拡散を抑制しながら、」のうしろに、「災害リスクにも配慮しつつ」または「災害リスクを踏まえて」といった文言を追加してはどうか。そうすると、「産業系土地利用の推進」は「都市機能の適切な誘導と集積」の一部であると整理できるのではないかと。</p> <p>同資料の No. １５については避難行動要支援者に係る意見であるが、施設管理者への対応に触れることはできないか。例えば、「地域や施設管理者と連携を深め」といった文言にすることで、特別養護老人ホームなど福祉施設も意見に含めることができるのではないかと。</p> |
| (事務局) | <p>No. ２については、産業系土地利用など、土地の利用用途を転換する可能性が大きい部分に記載してはどうかと考え、原案のとおり記載しているが、ご意見のとおり様々なことに関わることから、文言の修正について検討させていただく。</p> <p>No. １５については、施設管理者も一緒になって考えていかなければならないことから、いただいたご意見も参考にしながら、主要な意見として再度整理させていただく。</p> |
| (副部会長) | 前回の答申で「ストック効果」について触れられており、今回の答申案でも資料２－１の No. ３において「ストック効果」が記載されている。「ストック効果」とは何か。また、前回と今回で何か違いがあるのか。 |
| (事務局) | 特に大きな違いはない。また、ストック効果については、社会資本整備の効果の一つとして挙げられる。例えば、道路事業において、実際の工事等に伴って生まれる雇用などの経済効果をフロー効果と呼ぶのに対し、道路が整備されることで、交通の流入量が増加して人が集まりやすくなる、または交通渋滞が緩和し、スムーズな移動が可能になり時間短縮効果が表れてくることなどをストック効果という。これらの効果については、ハード整備を行う中での重要な視点として引き続き捉えたいと、効果が最大 |

| | |
|--------|---|
| | <p>限発揮されるような取組を進めていかなければならないという考えのもと記載していきたい。</p> |
| (部会長) | <p>用語の説明は付けられるのか。</p> |
| (事務局) | <p>製本に至るまでに用語解説として整理する。</p> |
| | <p><u>基本目標3 活力とにぎわいのあるまち</u></p> |
| (事務局) | <p><事務局説明></p> <p>(質疑応答)</p> |
| (委員) | <p>審議会で様々な意見が出たが、とにかく取り組んでみるのが大切だと思う。取り組んでみないと、このまちは変わらないし、今がまさに変わるための絶好の機会だと思っている。また、変わるためには様々な人に協力してもらうことも必要だと思う。</p> |
| (副部会長) | <p>資料2-2のNo.5について、近年、ペットを連れた旅行者が多くなってきているため、見土呂フルーツパークもペット連れでの入園を認めてはどうか。集客効果はあると思う。</p> |
| (副部会長) | <p>前回の答申において「インバウンド観光」のことが触れられているが、わがまちでのインバウンド観光は疑問に思う。まずは、市民の皆さんが楽しめるまちになれば、自然と市外に住む人やインバウンドで訪れる人の関心につながると思う。インバウンドのみを狙った取組を進めた場合、失敗に伴う影響が大きいと思う。</p> |
| (委員) | <p>市民は、市内の観光資源についてどの程度知っているのか。</p> |
| (加古川市) | <p>詳細な資料は持ち合わせていないが、アンケート調査は行っている。資源といっても様々であり、市民が知らない資源もあると考えられるため、引き続きPRに努めたい。</p> |
| (副部会長) | <p>市民の皆さんには、わがまちに誇りをもってもらいたいが、そのためには市のあらゆる資源を知ることが大事だと思う。</p> <p>歴史的な話題になるが、野口町という地域に注目すると、北に向かって山陽道という街道が続く非常に重要な拠点とされており、教信寺や賀古の駅家(かこのうまや)があったということをどれほどの野口町民が知っているのかと思う。こうした歴史も知っておくことが重要だと思う。</p> |

| | |
|--------------|--|
| <p>(事務局)</p> | <p>いただいたご意見のとおり、本市のことを知ってもらうことは重要なことであると認識している。そのため、原案96ページの施策「シティプロモーションの推進」をまちづくりの進め方の一つとして取り上げている。現行の後期総合基本計画では記載しているが、力を入れて取り組んでいかなければならないと考えており、原案では施策レベルに引き上げて記載している。また、市民の皆さんに市の魅力や地元のことを知ってもらうほか、観光資源を含めて誇りを持ってもらえるまちをめざすことも重要であることから、「魅力の再発掘」という施策の方向性を記載している。</p> <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の会議で第3部会は終了し、9月25日の予備日も開催しない。 ・ 本日いただいたご意見については、部会長と事務局で調整を行う。 ・ 部会長、副部会長については、9月1日の第1回総括部会にご出席いただきたい。 ・ その他の委員については、10月7日の第4回総合計画審議会にご出席いただきたい。 ・ 開催通知は、後日送付させていただく。 <p>3 閉会</p> |
|--------------|--|